

HAPPY Music Life

新 企 画

筋トレにはならないけれど  
脳トレになる!

7月 6日 (土)  
8月 休会  
9月 7日 (土)  
10月5日 (土)  
11月9日 (土)  
12月7日 (土)

毎回午後3時~4時

大人のための  
リトミック

気軽に参加ください♪

場 所 松岩寺  
熊谷市本石1-102

参加費 500円

対 象 どなたでも 小学生以上から参加できます

講 師 大澤 佳奈子  
リトミック研究センター ディプロマA取得  
幼稚園教諭 保育士資格所持

編 集 後 記

○超時代おくれな人間なもので、日常の情報は紙の新聞から入手しています。少し前に学生の就職活動が記事になっていて、「今後のご活躍をお祈りします」という不採用通知は、「お祈りメール」と称されて人気がないのだそう。好感度が高いのは「いつの日か、ご一緒に仕事ができる日を！」という断りの文面だという。その気分、何となくわかる気がします。

○そんな新聞を待たま電車の中で読むことがあります。今、列車で新聞紙をひろげている人、いないですね。ひとりですることをしていざと恥ずかしくなるほど、誰も紙の新聞は読んでいない。

○右のページで紹介したけれど、紙の本しかない昭和のはじめに、紙で製本された詩集にこだわった金子みすゞが命を終える前日、目の目を見ることができないかも知れない詩集の肖像写真を撮った逸話には涙がでます。と同時に、そのすさまじい気迫には立ちすくむしかありません。『金子みすゞ全集』が、はじめて出版されたのは、没後54年たった昭和五十九年のことです。

○みすゞさんの肖像写真の逸話を知ったのは、私の著書『おうちで禅』の編集が大詰めを迎えた頃でした。それで、私もイラスト担当の三木澄子さんに聞いたんです。「著者略歴に載せる写真だけでなく、格好良く写っている写真ないから、プロに新しく撮ってもらった方がよいですか」。イラストレーターなんて言ったと思います。プロフィールに写真が載るのは、有名作家だけです。花岡さん用意しなくて良いです。それよりも誤字脱字いっぱいあるから、それを直してください」って。

○あれから、三年。同じイラストレーターと同じ装丁デザイナー、そして同じ編集者で、もう一度一緒に仕事ができる夏になりそうです。だから、今年はメチャクチャ忙しいお盆になります。(博考記)

境内の北、旧中山道に面したところにある、伝道掲示板の令和6年7月に掲載するものを紹介します。

伝 道 掲 示 板

blogから

伝道掲示板には1ヶ月にひとつの言葉を紹介しています。経典の引用や、詩や小説のなかの言葉であったりします。道ばたの1メートル四方の掲示板ではお伝えできない、ことばの周辺はblogに載せています。松岩寺ホームページからブログへリンクしています。



写真 千田完治



七月のことば

私(わたし)は不思議でたまらない、  
黒い雲からふる雨が、銀(ぎん)に  
ひかっていることが。

金子みすゞ

金子みすゞさんの「不思議」と題した詩です。みすゞさんは、明治36(1903)年、山口県大津郡仙崎村(今の長門市)に生まれます。20歳の頃から童謡を書き始め、90篇あまりが、西条八十が主宰していた『童話』あるいは『赤い鳥』『婦人画報』などに掲載されるけれど、生前に自分の詩集が出版されることはありませんでした。

そして、結婚、離婚。昭和5年3月10日にみすゞさんはみすゞから命を絶ちます。26歳でした。その日は離婚した夫が、三歳になる娘の「ふさえ」を引取りに来る日でした。戦前の民法には離婚した母親には親権が認められなかった。

その前日、3月9日。みすゞさんは下関の写真館で写真を撮っています。なんのためだと思えますか。死後、詩集が出版された時に載せる顔写真をとったのではないだろうか、という(松本侑子著『みすゞと雅輔』新潮文庫)。

みすゞさんは、死の前日にまだ出ぬ、いや、出版されることがないかもしれない詩集用の写真を撮影する。切ないけれど、こういう逸話を

しるとゾクゾクしてきます。そして、人生にはもしもあの時、ああしていたらIFはないのですが、もし、あと一ヶ月で、西条八十が主宰して、竹久夢二の絵が表紙をかざる新しい雑誌に自分の詩が華々しくのることを知っていたら、みすゞは命を絶たなかったかもしれない。いくつかの「もし」といくつかの「思い」が交差するなかで命を絶つのです。さて、掲示板には冒頭の三行しか載せられなかったけれど、「不思議」は次の詩句がつづきます。

私は不思議でたまらない、青い桑の葉たべている、蚕が白くなること。

私は不思議でたまらない、たれもいじらぬ夕顔が、ひとりではらりと開くのが。

私は不思議でたまらない、誰にきいても笑って、あたりまえだ、ということが。

あたりまえのことなんかなんだよ。すべてが、不思議なんだよ。禅も「大いなる疑いがあるところに、大いなる悟りがある」。そう、説いて、詩人と同じことを教えます。

願わくは七月、銀色の雨ならばよいけれど、集中豪雨なんていうのは遠慮したい今年の梅雨です。